

中国新型炉技術交流団

期間：2012年5月20日(日)～5月26日(土) (7日間)

— 参加者募集のご案内 —

主 催：一般社団法人 日本技術者連盟

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F

TEL：03-6229-1946 FAX：03-6229-1940

<http://www.jef-site.or.jp/>

協 力：日本テピア株式会社 日中経済・技術交流センター

総合事務局：株式会社アジア技術移転機構(ATTO)

200基を超える原子力発電所を計画中の中国は、各種新型炉の開発とも積極的に取り組んでいます。中国科学院は2011年1月、戦略的先導科学技術特別プロジェクトの一環としてトリウム溶融塩炉(TMSR)原子力システムの研究を開始することを明らかにしました。

中国科学院はTMSRの開発を4段階で進めるとしており、まず2015年までは問題発見期間として、2MWの実験炉を建設しゼロ出力臨界を達成した後、2年後に2MWを達成する計画です。次の5年間では、モジュール化炉の研究開発を開始するとともに、10MWの実験炉の臨界を達成することを予定しています。2020年～30年は実証応用段階と位置付けられており、電気出力100MWの実証炉を建設し臨界を達成したあと、2040年までに商業利用段階に持っていくというものです。

また、原子力発電と核燃料サイクル事業をてがける中国核工業集团公司は、米マイクロソフト社の創業者ビル・ゲイツ氏が出資する原子力ベンチャー「テラパワー」との間で、進行波炉(TWR)と呼ばれる新型原子炉の共同開発交渉を進めています。福建省では、世界初のTWRを建設する計画が具体化してきました。

このほか中国は、高温ガス炉や高速増殖炉の開発も積極的に進めており、山東省では高温ガス炉実証炉がまもなく着工の予定となっています。高速増殖炉実験炉に続く実証炉計画も具体化してきており、正に中国は新型炉開発で世界の先頭を走っています。

こうした状況を踏まえ、下記の通り、標記「中国新型炉技術交流団」を編成・派遣することと致しました。関係各位におかれては奮ってご参加頂きます様ご案内申し上げます。

中国新型炉技術交流団 団長・コーディネーターのご紹介

団長・コーディネーター



松井 一秋 氏
財団法人エネルギー総合工学研究所
研究理事 主席研究員

1969年東京大学工学部原子力工学科卒業
1971年東京大学大学院工学修士
1971年呉羽化学工業株式会社入社
1975年米国ペンシルバニア州立大学大学院
化学工学修士
1980年エネルギー総合工学研究所入所
現在理事兼主席研究員

国内では日本原子力学会元副会長、
国際的には第4世代国際フォーラムのメンバー、
OECD/NEAの原子力開発委員会委員長
米国原子力学会理事

1. 高速増殖実験炉

中国の高速炉実験炉(CEFR)(電気出力2万KW)が2011年7月21日に送電開始。実験炉に続く実証炉計画が具体化。中国の高速炉計画の実施主体である中国原子能科学研究院ならびにCEFRを訪問、視察し中国側関係者と意見交換を行う。

2. 清華大学・高温ガス炉実験炉

山東省の実証炉プロジェクト(20万KW x2基)の着工を控え、高温ガス炉研究の中心となっている清華大学核能・新能源技術研究院を訪問し意見交換を行う。同研究院では、高温ガス炉に加えて、5MWの低温熱供給実験炉の視察を行う。

3. 厦門(アモイ)大学(進行波炉)

中国国家エネルギー局の電力司核電処(電力部原子力発電課)は、進行波炉弁公室(行波水推弁公室)を設立し、国内の関係機関の調整をしている。教育部直属の国家重点大学である厦門(アモイ)大学は、広東核電集団有限公司との間で、進行波炉を共同で研究開発する戦略協力協定を締結し、福建省に世界初の進行波炉を建設する事を目指している。

4. 中国科学院上海応用物理研究所(トリウム溶融塩炉)

中国科学院は2011年1月25日、『創新2020』の記者会見で、戦略的先導科学技術特別プロジェクトの一環として、トリウム溶融塩炉原子力システムの研究を開始する事を明らかにした。上海応用物理研究所は、トリウム溶融塩炉開発を担当する中国科学院傘下の研究所である。

5. 上海核工程研究設計院(超臨界水炉、AP1000、CAP1400)

上海核工程研究設計院は、米ウエスティングハウス社が開発したAP1000の国産化、ならびに同型炉をベースに中国が知的財産権を所有するCAP1400とCAP1700の開発設計を担当している。国家核電技術公司傘下の研究所である。

スケジュール表

日程: 2012年5月20日(日)～5月26日(7日間) ※訪問先、発着時間、交通手段等は都合により変更する場合がございますので予めご了承ください。 ※飛行機はエコノミークラスを利用します。

日程	地名	交通手段	時間	スケジュール	宿泊ホテル	食事
5/20 (日)	東京(羽田)発 北京着	CA-182 専用バス	11:45 13:50 16:30	羽田空港中国国際航空カウンター前集合 搭乗手続きの後 みな結団式 中国国際航空にて北京へ 到着後、ホテルへ	北京泊	機内食 夕 ○
5/21 (月)	北京滞在	専用バス	午前 午後	・高速増殖実験炉視察 ・清華大学・高温ガス炉実験炉視察 熱供給炉視察(予定)	北京泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
5/22 (火)	北京滞在 北京発 アモイ着	専用バス CA-1815	午前 16:05 18:50	・中国国家能源局 訪問 国内線にてアモイへ	アモイ泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
5/23 (水)	アモイ滞在 アモイ発 上海(虹橋)着	専用バス MU-5664 専用バス	16:50 18:20	・アモイ大学(進行波炉)訪問 国内線にて上海へ 着後、ホテルへ	上海泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
5/24 (木)	上海滞在	専用バス	終日	・中国科学院上海応用物理研究所訪問 (トリウム溶融塩炉)	上海泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
5/25 (金)	上海滞在	専用バス	終日	・上海核工程研究設計院訪問 (超臨界水炉、AP1000、CAP1400)	上海泊	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
5/26 (土)	上海(浦東)発 東京(成田)着	専用バス CA-929	朝食後空港へ 9:55 13:50	朝食後空港へ 中国国際航空にて帰国の途へ 成田国際空港第一ターミナル南ウィング到着後解散		朝 ○ 機内食

中国新型炉技術交流団 募集要項

- 調査期間 : 2012年5月20日(日)～ 5月26日(土) 7日間
- 団長 : 松井 一秋 氏 (財団法人エネルギー総合工学研究所 研究理事 主席研究員)
- 通訳者(日⇄英語) : ベテラン適任者
- 添乗員 : 添乗員は全行程同行致します。
- 参加費 : ￥ 630, 000— (消費税込)

※但し、2012年 4月27日(金)以降のお申込みにつきましては航空運賃が変更になりますので、参加費の変更をする場合もございます。予めご了承下さい。

※詳細は以下をご参照ください。

- ホテル : 原則的に一人部屋
- 募集人員 : 15名(最低人数 10名)
- 申込締切 : 2012年4月27日(金)

参加費に含まれるもの

- ・ 団体エコノミークラス航空運賃
- ・ 燃油特別付加運賃、空港税等
- ・ ホテル宿泊費(シングルルーム、税・サービス料含む)、一部食事代(日程記載分(機内食含む)、飲み物代は別)
- ・ 運営業務費(プログラム企画・運営費、団長、添乗員同行費)
- ・ 訪問先関係費、報告書作成費など事前研修費(資料費、会場費、講師費等)
- ・ 現地陸上交通費(空港・ホテル・視察先への専用バス代、ガイド代、列車代、チップ代等)
- ・ 通訳料

参加費に含まれないもの

- ・ 渡航手続き諸費用(旅券取得費用、渡航手続き取扱い料金等)
- ・ 個人的経費(ホテルにおける電話代、クリーニング代、チップ等)
- ・ 集合時及び解散後の交通費
- ・ 超過手荷物料金(エコノミークラスは20kg以上)
- ・ 任意の海外旅行傷害保険
- ・ 障害・疾病に関する医療費

取り消し料金

- ◎ 旅行上の諸費用(航空運賃、ホテル宿泊費、現地地上交通費等)
- ・ 実施日から起算し、さかのぼって30日前以降3日前まで : 費用の20%
- ・ 実施日から起算し、さかのぼって2日前以降1日前まで : 費用の50%
- ・ 実施日当日の取り消しは、全額申し受けます。
- ◎ 運営業務費、共通経費等は別途申し受けますので予めご了承下さい。

一般社団法人日本技術者連盟 役員構成

会長	星野 克美	一般社団法人 日本プライバシー認証機構 会長 多摩大学 名誉教授
顧問	岡村 總吾 斎藤 信男 唐津 一	東京電機大学 名誉学長 前国際大学 理事長 工学博士 慶應義塾大学 名誉教授 工学博士 東海大学 名誉教授
理事	井戸田 勲 梶原 豊 浮舟 邦彦 森 和義 佐藤 正文	特定非営利活動法人 日本プライバシーコンサルタント協会 専務理事 高千穂大学 名誉教授 経営学博士 学校法人 滋慶学園 総長 Ph.D. 有限会社森テクノマネジメント 代表取締役 技術士(電気・電子部門、経営工学部門) 社団法人 日・タイ経済協力協会 顧問
監事	田代 空 寺村 康佑	特定非営利活動法人 日本プライバシープロフェッショナル協会 会長 元財団法人 日本人事行政研究所 理事長 株式会社サイバプロ 取締役

一般社団法人日本技術者連盟 委員会 委員構成

『国際原子力発電技術移転機構』委員会

委員長	佐々木 宜彦	財団法人 発電設備技術検査協会 理事長
顧問	野々内 隆 逢坂 國一 荒井 利治 宅間 正夫	財団法人 経済産業調査会 理事長 社団法人 日本電気技術者協会 会長 前社団法人 日本原子力学会 シニアネットワーク 副会長 社団法人 日本原子力学会 シニアネットワーク 会長
委員	池本 一郎 石塚 祖雄 小川 順子 金氏 顯 河原 瞳 佐川 涉 関村 直人 津山 雅樹 富岡 義博 新田 隆司 藤井 靖彦 宮野 廣 諸葛 宗男	財団法人 電力中央研究所 特別顧問 博士(エネルギー科学) 社団法人 日本原子力産業協会 常務理事 東京都市大学 准教授 / 女性研究者支援室長 WIN-Japan 会長 社団法人 日本原子力学会 シニアネットワーク 代表幹事 元社団法人 日本原子力学会 会長 社団法人 日本技術士会 理事 技術士 工学博士 東京大学大学院 工学系研究科 原子力国際専攻 教授 工学博士 社団法人 日本電機工業会 原子力部長 電気事業連合会 原子力部長 日本原子力発電株式会社 常務取締役 東京工業大学 名誉教授 工学博士 特定非営利活動法人 日本保全学会 特別顧問 法政大学 客員教授 東京大学 公共政策大学院 特任教授

『アフリカ・中東技術者フォーラム』委員会

委員長	森 和義	一般社団法人 日本技術者連盟 理事 技術士(電気電子部門、経営工学部門)
委員	畑尾 成道 坂倉 省吾 島 直 佐藤 正文 小泉 英雄 鄭 紹良	技術士(建設部門、総合技術監理部門) 財団法人 海外技術者研修協会 理事 工学博士 ICTコンサルタント・前GBDe消費者信頼委員会 筆頭シエルバ 前 財団法人 海外技術者研修協会 理事 社団法人 日・タイ経済協力協会 専務理事 技術士(電気電子部門) 台湾総統府 科学技術諮問委員会 委員 台湾総統府 顧問 国家実験研究院 ボードディレクター 無任所大使、工学博士・PE
	井戸田 勲	一般社団法人 日本技術者連盟 専務理事
海外委員	AOTS各国同窓会メンバーよりご依頼中・順不同	
アジア地区	Himpunan Alumni AOTS Indonesia Persatuan Alumni AOTS Malaysia AOTS Vietnam Alumni Society (AVAS) ABK & AOTS Alumni Association (Thailand) Association of Iran's Japan Alumni (AIJA) AOTS Alumni Society, Cameroun (AOTS-CAMEROUN) AOTS Alumni Society, Egypt AOTS Alumni Association - Ghana AOTS Alumni Society of Tanzania The AOTS Alumni Society of South Africa	
中東地区		
アフリカ地区		

総合事務局 : 株式会社アジア技術移転機構 (Asia Technology Transfer Organization, Inc. (ATTO))

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F TEL : 03-6229-1950 URL : <http://www.atto-asia.jp>

お申込みは別紙に必要事項をご記入の上、事務局までFAX(03-6229-1940)又は郵送でお送り下さい。